

# 第3学年2組音楽科学習指導案

平成28年10月28日（金）

場所 高角小学校体育館

授業者 佐々木 紗央里

## 1 題材名 いろいろな音のひびきをかんじとろう

## 2 題材の目標

各楽器の音色の違いに関心をもって反復や変化の仕組みを聴き取り、それらによって生み出されるよさや面白さを感じ取りながら、表現したり鑑賞したりする活動を通して、思いや意図をもって音楽をつくる能力を育てる。

## 3 題材設定の理由

### （1）題材について

本題材では、学習指導要領 A 表現（3）ア「いろいろな音の響きやその組合せを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。」及び、イ「音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。」を主な指導事項とし、〔共通事項〕の音色、強弱、音の重なり、反復、変化を支えとして学習を進めていく。

低学年では、身近な打楽器を用いて音色の違いを感じ取り、音の重ね方による響きの違いに気付きながら、表現の仕方を工夫する学習を行ってきた。その経験を踏まえて、本題材では自分なりのイメージを基に楽器の鳴らし方やその組合せを試したり、音の重ね方を工夫したりしながら音楽づくりの学習を展開していく。最初に扱う「トランペットふきの休日」と「アレグロ」は、トランペットとホルンの音色を聴き比べることで、金管楽器の音色の違いに気付き、音色についての関心を高めることができる教材である。そして、次に扱う「おかしなすきなまほう使い」は、歌と朗読によって魔法使いのユーモラスな様子が描かれている。歌詞が表す場面を想像することで「まほうの音楽」のイメージをもつことができ、自分でつくってみたいと意欲をもたせるのに適している。最後に扱う「まほうの音楽」は、イメージに合う「まほうの音楽のもと」を探す活動を通して、楽器の音色の違いを感じ取る力や、音の特徴を聴こうとする態度を育てることができる。即興的につくった「まほうの音楽のもと」を、反復や変化を生かして組合せ方や重ね方を工夫することで、思いをもって「まほうの音楽」をつくることができる。これらの教材を通して、本題材の目標に迫っていくことができると考える。

### （2）児童について

…＜個人情報保護のため省略＞…

### (3) 指導にあたって

指導にあたっては、研究仮説から以下の点を具体的に取り上げる。

【仮説1】目的意識をもつことができるめあてに向かう学習過程を工夫し、指導と評価の一体化をすることで、児童は主体的に音楽づくりに取り組み、めあてを達成させることができるであろう。

#### ア 目的意識をもつことができるめあての設定

##### **工夫して「まほうの音楽」をつくらう**

「まほうの音楽」という言葉は、つくる音楽を児童がイメージしやすく、「つくりたい。」と意欲をもつことができる。そして、「工夫して」という言葉を入れることで、学んだ〔共通事項〕を生かして音楽をつくることを意識させ、めあての達成につなげていく。

#### イ めあての達成に向かう学習過程

第一次では、「トランペットふきの休日」と「アレグロ」を聴き比べることで、金管楽器の音色の違い、反復・変化している旋律を聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音色への関心を高める。

第二次では、「おかしなすきなまほう使い」の歌唱を通して楽曲の気分を感じ取ることで、「まほうの音楽」のイメージを膨らませ、「『まほうの音楽』をつくりたい。」という気持ちをもたせる。第三次では、まず一人で楽器の鳴らし方を工夫し、イメージに合う「まほうの音楽のもと」を見つける。その活動の前には、図画工作科の学習で関連のある題材を扱い、まほう使いがまほうをかける様子を十分イメージさせておく。そして、それぞれが見つけたイメージに合う「まほうの音楽のもと」を、グループの友だちと組み合わせたり重ねたりしながら、段階的に「まほうの音楽」へと構成していけるようにする。「まほうの音楽」が完成したら、つくった音楽を互いに聴き合い、友だちの工夫やよさを見つける時間を大切にしていく。活動時間の確保だけでなく、〔共通事項〕に基づいた聴く視点を示すことで、児童の達成感を高める。

#### ウ 指導と評価

評価場面と具体的な評価規準を以下のように設定し、次時の指導に活かす。

##### (a) めあてをつかむ

- ・音色の違いや反復・変化している旋律、強弱に関心をもって聴き取っている。〈観察・ワークシート〉
- ・歌詞が表す場面を想像し、「まほうの音楽」のイメージをもっている。〈児童の表現・ワークシート・観察〉

##### (b) 音楽活動と言語活動の往還

- ・「まほうの音楽のもと」を「まほうの音楽」にするための工夫を考え、アイデアを出している。〈観察・ワークシート〉
- ・自分の思いを伝えたり、友だちの思いを聞いたりしながら、音の鳴らし方や重ね方を試行錯誤している。〈観察〉
- ・友だちがつくった「まほうの音楽」を聴き、音色や強弱、音の重ね方や反復、変化を聴き取り、そのよさや面白さを言葉で表現している。〈観察・

ワークシート＞

(c) 表現の完成

- ・「まほうの音楽」のイメージに近づけるために、音の鳴らし方や重ね方を工夫している。＜観察・ホワイトボード・児童の表現＞
- ・イメージに合った音を出している。＜ワークシート・児童の表現＞

【仮説2】学び合いのあり方と評価方法を工夫することで、児童の思考力・判断力・表現力を育成し、めあてを達成させることができるであろう。

ア 学び合いを支える常時活動

音色の違いを感じ取り、自分の言葉で感じたことを表現できるようにするために、1つの楽器から様々な音を見つける活動に取り組む。また、反復や変化、強弱をつける面白さを体験できるように、楽器を鳴らして友だちの音やリズムを模倣したり、変化させたりするリレー形式の活動に取り組む。

イ 効果的な学び合いになるための方法

音楽づくりは3人で行い、音を重ねるよさや面白さを味わうことができるようにする。また、音の響きを味わえるよう、グループの間隔が十分とれる場所で行う。学び合いの場面では、楽器の組合せや重ね方を試行錯誤できるように、ホワイトボードと貼り直し可能な図形カードを使用する。

ウ 学び合いにおけるめあての達成に向かう評価のあり方

- めあてが分かり、進んで音楽づくりに取り組んでいる。＜観察＞
- 自分の思いを伝えたり、友だちの思いを聞いたりしながら、音の鳴らし方や重ね方を試行錯誤している。＜観察＞
- 友だちがつくった「まほうの音楽」を聴き、音色や強弱、音の重ね方や反復、変化を聴き取り、そのよさや面白さを言葉で表現している。＜観察・ワークシート＞

4 学習指導要領とのかかわり

- ・本題材で指導する事項：A表現（1）歌唱イ（3）音楽づくりア、イ  
B鑑賞 イ
- ・本題材で指導する内容：〔共通事項〕ア（ア）音色、強弱、音の重なり  
（イ）反復、変化

5 教材

- ・「おかしのすきなまほう使い」（秋葉てる代作詞／大熊崇子作曲）教育芸術社  
3年 P38, 39
- ・「まほうの音楽」 教育芸術社 3年 P40, 41
- ・「トランペットふきの休日」（アンダソン作曲）教育芸術社 3年 P44
- ・「アレグロ」（モーツァルト作曲）教育芸術社 3年 P45

## 6 評価規準

### (1) 領域・分野と評価の観点との関連

	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の 創意工夫	ウ) 音楽表現の技能	エ) 鑑賞の能力
A・歌唱	○	○		
A・器楽				
A・音楽づくり	○	○	○	
B・鑑賞	○			○

### (2) 題材の評価

	ア) 音楽への 関心・意欲・態度	イ) 音楽表現の創意工夫	ウ) 音楽表現の 技能	エ) 鑑賞の能力
題材の 評価規準	○音色の違いや音楽の仕組みに関心を持ち、表現したり鑑賞したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	○音色の違いや音楽の仕組みを聴き取り、それらの働きが生み出す良さや面白さを感じ取りながら、どのように表現するかについて思いや意図をもっている。	○音楽の仕組みを生かして音楽をつくっている。	○音色の違いや音楽の仕組みを聴き取り、それらが生み出す面白さを感じ取って聴いている。
具体的な 評価規準	①音色の違いや反復・変化している旋律、強弱を聴き取る学習に関心をもって取り組もうとしている。(鑑賞) ②歌詞の表す場面を想像し、思いをもって歌う学習に進んで取り組もうとしている。(歌唱) ③楽器の音色を生かした即興的な表現に進んで取り組もうとしている。(音楽づくり) ④反復や変化に関心をもって、音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。(音楽づくり)	①歌詞の表す場面を想像したり、楽曲の気分を感じ取ったりしながら、どのように歌うかについて自分の思いをもって歌っている。(歌唱) ②楽器の音色を聴き取り、そのよさや面白さを感じ取りながら、音の出し方を工夫している。(音楽づくり) ③音色の違い、反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、思いをもって音楽をつくる工夫をしている。(音楽づくり)	①反復や変化を生かして、「まほうの音楽のもと」を「まほうの音楽」にしている。(音楽づくり)	①音色の違いや反復・変化している旋律を聴き取り、それらが生み出す面白さを感じ取っている。(鑑賞)

7 指導と評価計画【全8時間】

次	時	目標	○学習内容 ・学習活動	〔共通事項〕	評価と評価方法
第一次	1	音色の違いや反復・変化している旋律，強弱に関心をもって聴き取り，それらが生み出す面白さを感じ取ることができる。	○「トランペットふきの休日」と「アレグロ」を聴き比べる。 ・トランペットとホルンの音色の違いについて気付いたことをワークシートに書く。 ・反復・変化している旋律や強弱に気をつけて聴き，感想を伝え合う。	音色 反復 変化 強弱	ア① エ① 観察，ワークシート
	2	歌詞の表す場面を想像し，思いをもって歌う学習に進んで取り組むことができる。	○「おかしのすきなまほう使い」を歌う。 ・歌詞やナレーションを読み，魔法使いや場面の様子について想像を広げる。 ・音とりをして，CDに合わせて歌う。	反復	ア② 観察，児童の表現
第二次	3	歌詞の表す場面を想像したり，楽曲の気分を感じ取ったりしながら，どのように歌うかについて自分の思いをもって歌うことができる。	○思いをもって「おかしのすきなまほう使い」を歌う。 ・繰り返す部分の歌詞から，場面の様子や魔法使いの気持ちを想像する。 ・「まほうの音楽」についてイメージを膨らませる。	反復 強弱	イ① 観察，ワークシート，児童の表現
	4	楽器の音色を生かした即興的な表現に進んで取り組み，そのよさや面白さを感じ取りながら，音の出し方を工夫することができる。	○「まほうの音楽のもと」を探す。 ・楽器の正しい扱い方を知る。 ・いろいろな楽器を鳴らして，自分のイメージに合った「まほうの音楽のもと」を探し，図や言葉で表す。 ・見つけた「まほうの音楽のもと」を発表試合，「まほうの音楽」にしていく方法を考える。	反復 変化 強弱	ア③ イ② 観察，ワークシート，児童の表現
第三次	5	反復や変化に関心をもって，音楽をつくる学習に進んで取り組むことができる。	○「まほうの音楽のもと」を「まほうの音楽」にする。 ・音楽をつくるコツ【①くりかえす】【②変化させる】【③強弱をつける】【④組み合わせる】を生かして，音楽づくりをする。	反復 変化 強弱	ア④ 観察，ホワイトボード，ワークシート，児童の表現

めあてをつかむ

音楽活動と言語活動の往還

音楽活動と言語活動の往還	表現の完成	6 (本時)	音色の違い，反復や変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，思いをもって音楽をつくる工夫をすることができる。	○「まほうの音楽のもと」を「まほうの音楽」にする。 ・前時のこつ①～④に加えて，こつ【⑤重ねる】を生かして，音楽づくりに取り組む。 ・「まほうの音楽」を中間発表し，全体で友だちの音楽の工夫や良さを見つける。	音色 反復 変化 強弱 音の 重なり	イ③ 観察，ホワイトボード，ワークシート，児童の表現
		7	反復や変化を生かして，「まほうの音楽のもと」を「まほうの音楽」にすることができる。	○「まほうの音楽」を完成させ，「おかしなすきなまほう使い」を歌う。 ・中間発表で見つけた良さを生かして，音楽を完成させる。 ・「おかしなすきなまほう使い」と「まほうの音楽」を合わせて発表し，感想を交流する。	反復 変化 強弱 音の 重なり	ウ① ワークシート，児童の表現

## 8 本時の学習（本時 6 / 7）

### （1）目標

- ・ 音色の違い，反復や変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，思いをもって音楽をつくる工夫をする。

イ③（音楽表現の創意工夫）

### （2）展開

	学習活動 ・ 予想される児童の反応	・ 指導上の留意点	評価（評価方法）
導入	1 常時活動「〇〇な音のリレー」をしたり，歌ったりする。	・ 楽しい雰囲気です授業を始められるように常時活動をしたり，歌ったりする。	
展開	2 めあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">工夫して「まほうの音楽」をつくろう。</div> 3 「まほうの音楽」をつくるこつ①～④を振り返る。 ・ 繰り返すといい。 ・ ずっと同じは面白くないから，音の大きさを変える。 4 モデルを示し，「まほうの音楽」をつくるこつ⑤【重ねる】と本時の活動を知る。	・ 前時の学習を生かせるよう，こつ【①くりかえす】【②変化させる】【③強弱をつける】【④組み合わせる】をおさえる。  ・ 重なり合う響きの面白さを感じられるように，こつ【⑤重ねる】を教える。 ・ 音の重ね方が視覚的に分かる	イ③ 音色の違い，反復や変化を聴き取り，それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら，思いをも

	<p>5 3人で音楽をつくる。</p> <p>6 いくつかのグループの中間発表を聴き、工夫を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重ねているから、迫力があつた。</li> <li>・最後に音を小さくして、まほうが消えていくみたいだった。</li> </ul>	<p>ように、ホワイトボードと図形カードを使う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動が進まない場合は、つくりたい音楽のイメージを聞き出し、それに合う楽器の組合せや重ね方、強弱の工夫を一緒に考える。</li> <li>・楽器の組合せ、強弱や音の重ね方のよさや面白さに気が付けるよう、こつ①～⑤に気を付けて聴くよう伝える。</li> </ul>	<p>って音楽をつくる工夫をしている。</p> <p>&lt;観察&gt;</p> <p>&lt;ホワイトボード&gt;</p> <p>&lt;ワークシート&gt;</p> <p>&lt;児童の表現&gt;</p>
まとめ	<p>7 学習を振り返って、感想や気づきをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こつを生かした音楽づくりの感想や音楽づくりの工夫について書くよう声をかける。</li> </ul>	

### (3) 研究の視点

#### 【仮説2】

ア 1つの楽器から様々な音を見つける常時活動や、友だちの音やリズムを模倣したり変化させたりするリレー形式の常時活動は、学び合いを支えるために有効であったか。

イ 児童が活動しやすい場の設定や、試行錯誤するためのホワイトボードと図形カードを活用したことは、効果的な学び合いをするために有効であったか。

### (4) 本時の評価【音楽表現の創意工夫】イ③

	十分満足できると判断される児童の姿の具体例	おおむね満足できると判断される児童の姿の具体例	努力を要するとされる児童への支援
音楽表現の創意工夫	<p>音色の違い、反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音楽を特徴づける要素と結びつけて、思いをもって音楽をつくる工夫している。</p> <p>①ギロのカエルみたいな音とすずの金属の音は、全然違うから続けて鳴らすと面白</p>	<p>音色の違い、反復や変化を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、思いをもって音楽をつくる工夫をしている。</p> <p>①ギロの後にすずを鳴らすとなんだか面白いね。</p>	<p>イメージに合った「まほうの音楽」にするための工夫の仕方に気付くことができるように、「この鳴らし方だとイメージに合うかな。」や「〇〇と〇〇を重ねるとどんな感じが</p>

	<p>い。</p> <p>②ずっと同じ音色だとつまらないから、トライアングルを入れて音色を変えたいな。</p> <p>③初めはまほうをかけた瞬間だから大きな音にして、真ん中はまほうをかけている途中だから小さな音にして、最後はわくわくするように、だんだん大きくしたい。</p> <p>④ウィンドチャイムの「シャラララーン」は成功した音みたいだから最後に鳴らそうよ。</p>	<p>②繰り返しているところにトライアングルを入れてみよう。</p> <p>③初めは大きい音で、真ん中は小さくして、最後はだんだん大きな音にすると楽しそうだよ。</p> <p>④ウィンドチャイムの音色は最後に鳴らしたいな。</p>	<p>するかな。」と問いかけながら、一緒に音楽をつくる。</p>
--	---	---	----------------------------------